慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	Summa Theologicaの英訳
Sub Title	
Author	小泉, 信三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.6 (1920. 6) ,p.863(125)- 865(127)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200600-0125

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

し。此他「サンヂカリズム」「インダストリアル、ユニオニズム」直接行動ギルド社會主義と英國勞働組合運動との關係の如き、最も明瞭に論述せられ、遺憾なきものと認めざるを得ず。斯くて新裝せられたる「英國勞働組合主義」の歴史は一卷の下に、英國勞働組合の歴史と現狀とを明にし、他の追隨を許さゞるの地位に立つものとす可し。ウエッブ氏の著書全體を通じて特に感ずる所は其思想の清新の氣に充てること是れなり。現に本書の前版に於て、勞働組合を以て「雇傭の條件を維持し又は改良するの目的を有する賃銀收得者の繼續的結社なり」と定義したるを新版に於ては雇傭の條件なる文字を削除して彼等の勞働上の生活なる文字を採用したり。而して斯く改正したる理由は雇傭の條件なる文字を用ゆるときは、勞働組合は資本制度又は賃銀制度の永久的存續を承認するの嫌あり、

然も斯る推測は敢て事實に當らず勞働組合は既往世紀に於ける幾多の時期に臨み社會的又は經濟的關係に於ける革命的更新を皷吹したる事實に存するものなりとしたり。然らば前版に於ては、現在の經濟組織と調和するの外に、何等の企畫を有せざりし勞働組合も新版に於ては、經濟組織革新の新使命を懷抱するものとして、取扱はれたるを見る可く、斯の如きは勞働組合の目的に變化の生じたる今日に於て、必然の修正なると共に、ウエッブ氏が時勢の變動を察するに、如何に敏俊にして、些の躊躇するものなきやを示すの資料とす可く、此點に於て吾人はウエッブ氏の頭腦の融通性に富むことを認めんとす。

此他第十章の後半「思想に於ける革命」と題する項以後の如き將た又第十一章の如き、勞働組合運動史と云はんよりも、寧ろ社會改造に伴う新思想を示したりと稱するを以て當れりとす可きか。改造問題の喧しき今日ウエッブ氏の力作能く此新刊を公にしたるは、時機に適したりとす可し。余は本書を讀者に推薦するの外他に言う可き所を知らざるなり。（堀江歸一）

Summa Theologica の英譯

歐洲中世思想の大記念碑（モニユメント）たる Thomas Aquinas が大著 Summa Theologica の哲學史上の位置に就ては今新に絮說する事を須ゐず。而して此の書の經濟學說史的價値に就ては既に邦文にては福田博士の長篇「トマスダキノの經濟學說」歐文にて廣く我邦に行はるゝものには Ashley, Economic History and Theory の在るあり。玆には拉典語を能くせざるものゝ爲め、此大著の英譯が刊行せられつゝあるの一事を記すを以て足れりとなすべし。英譯題して

The "Summa Theologica" of St. Thomas Aquinas. Literally translated by Fathers of the English Dominican Province. R. & T. Washbourne, Ltd. London etc.

と云ひ、全部十七卷を以て成る。其内容を示せば左の如し。

第一部
- 第一卷　神及び神の屬性
- *第二卷　三位一體——創造——天使——六日の業
- *第三卷　人間——神政(divine government)

第二部上 Prima-Secundae
- *第一卷　人間の目的——人間の行爲——慾情
- *第二卷　習性——德及び不善
- *第三卷　正義と仁惠

第二部下 Secunda-Secundae
- *第一卷　信仰希望及び慈善
- *第二卷　用心——正義
- 第三卷　正義(續論)
- 第四卷　堅忍——節制
- 第五卷　恩寵——生活諸狀態

第三部及び附錄
- *第一卷　降生

*第二卷　基督論（マリヤ論を含む）
*第三卷　聖禮總論——洗禮——堅信式——聖餐式
*第四卷　痛悔——終油禮
第五卷　僧派——結婚
第六卷　最終事物の論——煉獄

而して今日までに刊行せられたるは星章を以て印せる十一冊にして一九一二年（或は十一年末？）に始まりて、千九百十八年第二部第二卷の出でたる時に及べり。

Summa Theologica 中 Thomas Aquinas の經濟學說を知らんが爲め讀むべき章節として Ashley が列記するところは（一）私有財產に就ては第二部下第七七問。第三節（「賣手は賣品の瑕疵を告知するの義務ありや否や」）同第六六問第一第二兩節（「人の外物を所有するは自然なりや否や」「人の一物を己れの物として所有するは適法なりや否や」）（二）棄富 voluntary poverty に就ては第一八八問第七節（三）施與に就ては第三

三問第五第六兩節（「施與は戒律に屬するや否や」「人は己れの必要とするものを割きて施與をなすべきものなりや」）（三）奴隸制度に就きては第一部第九六問第三節第二部上、第九四問第五節「原始時代には人は平等なりしや否や」「自然法は之を變更することを得るや否や」）（四）賣買及び價格に就ては第二部下第七七問全部（「一物を其價値以上に賣るは適法なりや否や」「賣物に欠點ありたる爲めに不法となるや否や」「賣手は賣品の瑕疵を告知するの義務ありや否や」「商業に於て一物をそれに對して支拂ひたるより高き價格を以て賣るは不法なりや否や」）（五）利息に就ては第七八問全部（「貸付けたる貨幣に對して利息を取るは罪惡なりや否や」「貸與へたる貨幣に對して他の何等かの報償を求むるは適法なりや否や」、「人が usury に依て得たる貨幣に依て致せる利潤は之を還附すべきものなりや否や」「usury の條件の下に貨幣を借受くるは適法なりや否や」）なり。今英譯本に就て見るに以上の諸章節を含めるは第一部第三卷、第二部上第三卷、第二部下第一、第二及び第四（？）の三卷なりとす。Thomas の經濟學說は果して上記諸章節以外に之を述べたるところなきや否や、余は既刊の部分の而かも僅かに其一隅を瞥見したるに過ぎざるを以て、未だ之を斷言する能はず。例へば Thomas の說として傳へらるゝ「時」は本來私人の私すべきものにあらざるに、貸金に對して利子を徵するはこの共有物なるべき「時」を賣るの擧なるを以て不當なりと云ふ說明の如き之を usury の章中に發見すること能はざるは余の異しむところなり。猶ほ詳に考ふるところあるべし。

（小泉信三）

河合氏著「勞働問題研究」

本文六四八頁附錄九五頁
定價五圓　岩波書店

河合榮治郎氏が農商務省在官中勞働問題に就て、上司と意見を異にし、官職を辭して、自家の意見を重んじたるは、世上公知の事實に屬し、當時氏が農商務大臣の意見態度等を難じたる一文を草して、某新聞に揭ぐるや、大に世人の喝采を博し又氏の勞働問題に就て動かす可からざる一家の見を有することを明にしたり。本書は河合氏の論文集にして、第一編「勞働問題に對して志を言ふ」を始め十四編の文章を收め、附錄に國際勞働條約、第一回勞働會議の決議、工場法等を揭げたり。

上記諸論文中には、第三編の如きオッグの著書より飜譯したるものあり、第四編の如きフロードの論文を紹介したるものあると共に、第二